

令和4年6月市長定例記者会見

日 時：令和4年5月30日（月） 午前10時～

場 所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、朝日新聞、
北日本放送、NHK富山放送局、富山テレビ放送

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、
環境課副参事、未来創造課長、総務課長、保健センター長

○質疑応答の概要

Q1. 新型コロナワクチンの3回目接種率について、最新の数字あればお伺いしたい。また、4回目接種の開始にあたって、3回目接種は縮小していくのか。
(読売新聞)

A1. 3回目接種の射水市の状況について、5月27日現在、3回目接種の対象者比は72.6%、人口比では60.0%であり、対象者別では、65歳以上高齢者では94.7%、12歳から64歳まででは60.6%である。小児接種については、1回目が17.3%、2回目が15.0%である。
4回目接種を進めていく中で、3回目接種の体制をどうしていくのかについては、並行して進めていきたいと思っている。(市長)

Q2. 全国的に接種率が下がり、ワクチン廃棄の事例があるが、射水市として何か事例があるか。(読売新聞)

A2. 3回目のワクチン接種については、若年層の接種時期に入っているが、1・2回目と比べて、接種率の伸びは落ちてきている。これによって、ワクチンが接種できずに廃棄になる事例が全国的にも報道されている。射水市については、詳しい確認は取れていないが、できる限り事前予約していただいてワクチン接種を行っていることから、ワクチン余りがないように取り組んでいるところではある。ただ、予期せぬ事情によるキャンセルなどで接種しきれないものもどうしても出てきているという現状である。(市長)

Q 3. 若年層の3回目接種率が全国的にも落ちてきているということだが、若者の接種について射水市における考えがあれば教えていただきたい。

(読売新聞)

A 3. まず、国の専門部会では、ワクチンの効果や副反応について、引き続き検証を行っている。そういったところから発せられる情報をしっかり発信していきたい。ワクチンについては、重症化リスクの軽減という効果について、これまでも専門部会で言われている。そういった情報も発信していくことになるだろうと思う。

昨今のオミクロン株の傾向からいくと、特に若者の間では、なかなか重症化は事例としてないのではないかと、言われていることから、3回目接種の伸びが鈍っているというところにも影響が出ている可能性があると思っている。

中学生や高校生といった学生さんも3回目接種の対象に入ってくるが、学校がある時期に接種を受けることは避けているのではないかという印象もあり、夏休み以降にそういった方々の接種の希望があった際に対応できるように、接種の体制を整えていきたい。(市長)

Q 4. ウクライナの避難民の受け入れについて、前回の記者会見では、早ければ5月下旬に受け入れとのことだったが、現在の状況をお伺いしたい。(読売新聞)

A 4. ウクライナから避難して来られる方について、ウクライナからの出国手続きに時間を要しており、現段階での具体的な入国時期は未定である。お話をさせていただいているご家族の方からは、射水市での受け入れを希望いただいているため、見通しが立った時点でご連絡をいただくこととしており、そのときの受け入れのためにしっかり準備を進めさせていただいている。(市長)

Q 5. 先月の記者会見で発表したウクライナから避難された方への支援に加え、新たに追加された支援があればお伺いしたい。(読売新聞)

A 5. 入居していただく市営住宅を確保し、照明器具、冷蔵庫などの家財道具や調理器具などその他の生活用品を順次運び入れているところである。また、就労や日本語教育についても、市内の高等教育機関や企業から協力できればというお話をいただいていたり、ウクライナ料理で使う食材をお渡ししたいというお話もお聞きしており、ウクライナの方のご意向を伺わせていただいた上で、ご意向があればそういったお話もお伝えしたいと思っている。(市長)

Q 6. ウクライナから新たな入国希望は来ているか。(北日本放送)

A 6. 今のところ来ていない。(市長)

Q 7. バイオマス指定ごみ袋について、コスト的に住民に負担を求めないことになるのか。(北日本新聞)

A 7. 従来の販売価格を変えないことから、市民への負担を求めているということになるかと思う。コストはかかるのに価格は変わらないのはどうかということもあるかと思うが、プラスチック使用量の削減は、市民、事業者、行政が取り組む必要があるものの、市民や事業者に十分浸透していない面もあることから、バイオマス由来のごみ袋を製造し、使用することで環境意識の高まりを期待している。

また、近年の環境意識の高まりにより、コンビニエンスストア等において「バイオマスレジ袋」の導入などの取り組みが積極的に進められていることから、市としても更なる取り組みを行う必要があるとの指摘を「プラスチック資源循環検討会」の中でいただいたことから、今回の導入に至った経緯がある。(市長)

Q 8. 家庭系可燃ごみ袋は全て新しいものに切り替えていくのか。(北日本新聞)

A 8. 家庭用の可燃ごみ袋については新しいものに切り替えていく。(市長)

Q 9. 浦山学園主導のビストロノミー倶楽部は、ユネスコ食文化創造都市を目指すとしているが、包括連携都市である市長としてはどうお考えかお伺いしたい。(北日本新聞)

A 9. 浦山学園の浦山理事長さんから、射水の魅力ある食を活かし、ユネスコ食文化創造都市を目指す取組みをしたいとお聞きしていたところである。浦山学園さんとは様々な分野において連携を図っており、包括連携協定も締結させていただいている。ユネスコ食文化創造都市の取組みについて具体的にお伝えできる段階ではないが、意見交換をさせていただきながら、射水市としても食文化の再発見であったり、地域の活性化・魅力の向上に向けて産学官の連携をしながら取り組んでいきたい。(市長)

Q 10. 射水と言えば白エビやカニがあるが、それ以外で市長として思い浮かぶ食材があれば教えてほしい。(北日本新聞)

A 10. 射水市としては、富山湾・新湊漁港に引き上げられる海産物はもちろん、様々な農作物も魅力の一つだと考える。加えて、鴨料理、キノコ作り、マツタケの復活の取組みなど、市民の方々に広く認識されていないかもしれないが、そういった魅力も広めていけるよう取り組んでいければと思う。(市長)

Q 11. 富山市随契の公開範囲を改めたことについて、射水市はどう考えるか。(北日本新聞)

A 11. 富山市さんの見直しに合わせて射水市も見直していくという考えは今のところない。本市については、この4月から、公共施設の全てではないが、包括管理業務委託をさせていただいているところであり、軽微な修繕については、包括業務受託をした業者さんと事業者さんとの間で対応したいだけのもと考えている。自分自身もその内容をしっかり見させていただく必要があると思っているが、大事なことは公平性を保つこと、またその上でできれば市内の事業所で仕事していただくことで、市の経済の活性化と公共施設の適切な維持管理につながっていくと考えている。(市長)

Q 1 2. 富山市で数年前にフランス製の自転車を導入した際に、なんでこんなに高いのかと疑問の声が上がった。市長は普段、契約の内容に目を通す際になぜこんなに高いのか?と感じたことはあるか。(北日本新聞)

A 1 2. 物品の購入や工事の積算については、公表されている価格を用いたり、事前の市場調査も行ったりしながら価格の設定をしており、適正な価格での発注に努めている。国からの交付金をいただきながら、生活困窮者やひとり親への給付金事業など対応していく際に、システムの更新が必要になるケースがある。システム更新もかなりの金額がかかる。そういったところに何か見直す部分があるとするならば、しっかり考えていきたい。(市長)